

一

二

有終

鑑賞

沿革

抽象

連携

二

一

A 移動

B 境界

二
ウ

三 国家とともにあった

四 国民国家と市民社会はマイノリティを尊

重し、容認してきたが、その土台となるテ

モクラシーが大きく変化しつつある

五
ア

六
エ

七
ウ

八
イ

二

二

研磨

宰相

尚早

和睦

踏襲

二

一
エ

二
エ

三
イ

四
オ

五
ア

六
ウ

七
エ

八

三

一

ア

イ

ウ

エ

ア

二

イ

ア

エ

三
なむ

四
エ

五
ウ

六
ウ

七
ア

八 しらぎく

九 とても心ひかれるので、ますます立ち去る

十 ことができず

エ

警沢を求めて浪費し、楽しみや豊かさを
取り戻すことで限界のない消費による大
量生産、大量消費、大量投棄による消費社
会の悪循環に亀裂を入れる